

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	太陽の子北小岩第二保育園
施設所在地	江戸川区北小岩3-9-6
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

色

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

子どもたちが折り紙を選ぶときに自分の好きな色を選んでいました。引き出しに使いたい色が無い時は保育者に「〇〇色が無い」と言う。保育者が「ある色使ったら?」と他の色を促すと「どうしても〇〇色が良いの」と言って自分の好きな色で折り紙をしたい気持ちが強かった。他にも制作するときには好きな色の物を使って制作する姿が多く見られているので、色に対しての興味関心が強いと感じこのテーマを選んだ。

## 2. 活動スケジュール

【子どもの様子からテーマを設定】

自由に折り紙を使える環境の中で、子どもたちが好きな色がある。明確な好きな色を使いたいという気持ちがあることに気が付いた。色が混ざると変化することを知っているが混ぜたら何色になるのか曖昧な様子で友だちと話していた。そのため、色を探究テーマしていくことにした。

【混色を体験する】

7月18日

色遊び講師の椎橋先生来園。小麦粉粘土を使い食紅で赤青黄色の色を付けた粘土を混ぜてみる。どのように色がかわるのか実際に行い体験した。三原色を混ぜると何色になるのか知ることができた。次は他の色も混ぜて何色になるのか知りたいと声が上がりがペットボトルを使って色混ぜの活動をした。

椎橋先生のアドバイスをを受けて環境設定や素材そのものをまずは楽しむことの大切さを教えていただいた。画用紙やビニールテープ、折り紙など、様々な色を用意して、自由に制作できるコーナーを作っていく、素材そのものを使って色々なことができるようにした。

8月

小麦粉粘土の色混ぜで三原色以外の2色の絵の具の色混ぜをする。

【同じ色を混ぜても違う色になることに気付く】

二色の色混ぜの際、紫を作ろうと同じ色を混ぜたが二人の色が違う事に気が付いた。そこで色の量によってできる色が違う事になんとなく気が付いている様子が見られた。

子供たちが興味や関心をもてるよう色見表を用意して室内に貼っておいた。ライトテーブルを用意し、折り紙を重ねて光に当てると色がかわる事にも気が付いていた。また、自分のできた色を見たり、友達の出来た色を見たりして好きな色が増えたり友だちと一緒に色を喜んでいたり、友だち関係が深まる姿も見られた。

11月

クリスマスツリー制作で緑色作り。緑を作るときに同じ絵の具を混ぜても量が違うと同じ色にならないと何となく気が付いている。そこで同じ色を作るが絵の具の量はバラバラで作ってみると色が違う。絵の具の量によっても色の違いがでることに気が付く。

11月21日

椎橋先生によるスタッフ向け研修

大人が活動を主導するのではなく、子どもたちの興味関心をどのように引き出すのか。環境を設定するための視点を得られる。

【微妙な色の変化に気付く】

12月3日

色遊び講師の椎橋先生来園。クレヨン。好きなクレヨンを使って、紙の上、床、壁、などをキャンパスに色を使った活動を行う。色遊びにおいて、自由に色や素材を選択できる環境、遊びこめる環境づくりの整備が必要だと感じた。

12月19日

椎橋先生によるスタッフ向け研修

椎橋先生との活動後、日常の遊び色の中に素材や道具を取り入れていく環境設定をした事で画用紙を切る、折る、組み立てるなど子どもたちの活動に変化が生まれた。

階段作り。絵の具の量によってできる色の濃淡や色合いが変わる事に気が付いた。

それを踏まえて、色見本表を見て好きな色を作り、それを保育園で使う階段に塗る活動をした。自分の好きな色を作るのに何色を混ぜるといいか、どの色を多く入れたら少く入れたりするのか試していた。最後に作った色が違うけれど塗っていくうちに混ざり色が変化することを楽しんでいた。

活動の中で友だちの作った色と自分の作った色を交換したり、混ぜあったりして色の変化を楽しみつつ友だちと一緒にやる事を楽しんでいた。

【自分の好きな色を作る】

狙った色を作るのは難しかったが、できた色に自分で名前をつける。できた色に愛着を持つ。友だちの色にも興味を示す。作った色で制作をする。友だちと色を分かち合う。など遊びの幅が広がる。

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

小麦粉粘土

小麦粉、食紅、水、油を用意した。テーブルにビニール袋を敷き、くっついた粘土を取りやすくした。みんなが混ぜた色粘土を見られるように机をくっつけた。床にブルーシートを敷き、床が汚れないようにした。

ブルーシートに付いた小麦粉粘土を掃除するためにケルヒャーを購入し掃除に使った。

絵の具混ぜ

ペットボトル、ゆび絵の具(赤、青、黄、緑、黄緑、水色、白、黒、おれんじ、ピンク、パールオレンジ、茶色)水を用意した。机には汚れてもいいようにストレッチフィルムを付けた。好きな絵の具を取りやすくするために机に並べて置いておく。

クリスマスツリー作り

絵の具(青、黄色)、カップ、筆、大きな紙を用意した。自分の好きな量混ぜることができるよう二色の絵の具を複数用意した。みんなが混ぜた色を見合えるように机をくっつけた。

階段色塗り

ゆび絵の具(青、黄色、ピンク、白、黄緑、赤)、カップ、刷毛、ローラー遊びセット、プレイマットを用意した。プレイマットを敷き、作った階段を乗せておく。好きな色を作れるように絵の具と刷毛とカップを用意しておく。作りたい色が見られるように色の表を貼っておく。

ライトテーブルを用意し、折り紙、マグネットブロック、大きい立体図形ブロックを用意し、重ねた時に、光によって色が透け、色が混ざって見えることなど発見した。

椎橋先生に教えてもらい、画用紙や折り紙、ビニールテープなどの素材を出して、好きな時に製作ができるようにした。色もたくさん出して好きな色、組み合わせなど子どもたちが自ら進んで活動できるよう環境設定を行った。

椎橋先生の講師料(ワークショップ・スタッフ向け研修)

## 4. 探究活動の実践

### <活動の内容>

【子どもの様子からテーマを設定する】  
自由に折り紙を使える環境の中で、子どもたちが好きな色がある。明確な好きな色を使いたいという気持ちがあることに気が付いた。色が混ざると変化することを知っているが混ぜたら何色になるのか曖昧な様子で友だちと話していた。そのため、色を探究テーマしていくことにした。

【混色を体験する】  
二色以上の色を混ぜると色が変化することを三原色（赤、青、黄）と小麦粉粘土を使って遊びをし、観察する。  
小麦粉粘土と食紅を混ぜ、色のついた粘土を用意する。子どもたちが自由に遊ぶように色ごとに分けておく。遊んでいるうちに混ぜて色が変化した時の様子を観察する。色が混ざると変化することを知っている子どもたちもいる中、どのようにして遊びが広がるのかを観察していく。  
色が変化することを体験し、何色でできたのか振り返り、発信する。  
【同じ色を混ぜても違う色になることに気付く】  
好きな色を選ぶよう12色の絵の具を机の上に並べた。  
自分のだけでなく友だちの作る色を見られる環境作り：友だちの作る色も見ることで様々なパターンの色の混ざりを見ることができた。  
作った色を比べられる環境作り：ペットボトルに作った色を取って置けるように、友だちと色を比べたり見せ合ったりできるようにした。  
できた色に名前を付ける：混ぜた色がどんな色になったのか子どもたちに聞いていった。その時見た色を自分の言葉で表現していた。  
作った色の写真をクラスに貼り作った時のことを振り返ることができるようにした。

【微妙な色の変化に気付く】  
色を混ぜると何色になるのかわかる表を部屋に貼っておくと「〇〇いろと〇〇いろをまぜると〇〇になるんだって」「ほんとになるのかな」「ならないんじゃない」など話している声があった。前回の活動で同じ色を混ぜても違う色になったことに気が付いていた。クリスマスが近づくと「つりーのきはみどりじゃないよね」「こいみどりじゃない」「たーこいずってかいてある」と貼ってある紙の色の名前を見て話していた。青、黄色の絵の具を用意し、自由に混ぜていった。混ぜると緑色ができていき、できた色に何度も黄色や青を再び混ぜていた。色が変化している時に友だちと見せ合い「おなじいろになった」「ちよっとちがうみどりだ」と色の違いや同じになったことを話していた。同じ緑でも少し違う事に気が付く様子が見られた。作った色を使ってクリスマスツリーを塗っていった。自分の作った色と友だちが作った色を塗ることで違いがより分かりやすく、自分の作った色にしたいのか友だちが塗ったところに重ね塗りする様子も見られた。

【自分の好きな色を作る】  
好きな色を作りたいように絵の具を用意する。混ぜやすいように大きめのカップを用意する。色を混ぜると何色になるのかわかる表があり、作りたい色があったら見てもいいよと伝えておく。「うすびんくをつくりたいかもうすこししろをいれよう」「あかをおくしたらあかむらさきになった」「こんないろになった」「かみにないいろをつくりたい」など話している声があった。自分の作った色で制作する。階に色を塗っていると「ぬったところにぬらないで」と重ねられるのを嫌がる様子が見られた。塗っていると「おれのいろのほうがつよい」「こっかがかっこいいいろでこっかがかわいいいろ」「ちよこれーとのいろになった」と混ぜることを楽しんでた。そして「〇〇くんのいろちよとちようだい」「いいわたしにもちようだい」など作った色同士をもらい合って混ぜている様子が見られた。できあがったものを見て「いのししみたい」と色を身近な動物に例えていた。

### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

小麦粉粘土  
赤、青、黄色の食紅を用意し、自由に混ぜて遊んだ。小麦粉に触れてから水を混ぜたので小麦粉に水を混ぜると感触が変わり「べとべとー」「のびたー」「くっついてとれない」など友だちと話していた。色のついた粘土を見て「あおほしい」「あかちようだい」「きいろがいい」など好きな色を手に取り、こねる事に集中していた。しばらくすると友だち同士で交換し合い、色の違う粘土が混ざると「いろがかわった」「にじいろー」と変化に気付いて話していた。色がうまく混ざっている所と混ざっていないところをみて、曖昧な色に対して紅色と表現する様子が見られた。時間が経ち混ぜ合わせて色が変化してくると「みどりになった」「おれんだ」「へんないろになった」など変化した色を友だちや保育者に話していた。緑やオレンジができた後もそれを混ぜて暗い色になり「へんないろになった」と表現していた。

ペットボトル二色混ぜ  
前回小麦粉粘土を行い「ほかのいろをまぜたい」「びんくをつくりたい」など声が上がった。そこで様々な色の絵の具とペットボトルを用意して混ぜることができる環境を用意した。

1. 色を選ぶ環境づくり：好きな色を選ぶよう12色の絵の具を机の上に並べた。
2. 自分のだけでなく友だちの作る色を見られる環境作り：友だちの作る色も見ることで様々なパターンの色の混ざりを見ることができた。
3. 作った色を比べられる環境作り：ペットボトルに作った色を取って置けるように、友だちと色を比べたり見せ合ったりできるようにした。
4. できた色に名前を付ける：混ぜた色がどんな色になったのか子どもたちに聞いていった。その時見た色を自分の言葉で表現していた。
5. 作った色の写真をクラスに貼り作った時のことを振り返ることができるようにした。

子どもたちが「ぜんぶのいろをまぜたい」と話していたが前回の小麦粉粘土で三色を混ぜたら変な色になったことを話し、二色にしたらどうかと投げかけてみた。  
混ぜていく中で友だちと同じ色を混ぜたのに「ちがうむらさきになった」「なんで」「ぜんぜんいろちがう」など色の量でも変化が変わる事に気が付いた様子。

クリスマスツリー作り  
子どもたちは机の上にある絵の具を見て好きな色、なんとなく選んだ色をペットボトルに入れて笑顔でペットボトルを振っていた。ペットボトルの中で色が混ざり何色になったかよりも先にじゅくり色の変化を見ていた。自分で見た後友だちや保育者に見せるためにペットボトルを高々と上げて見せていた。保育者が「何色になった？」と聞くと混ぜると何色になるか知っている子は「〇〇色」と自信を持って発言していたが、初めて混ぜる色で何色か分からない時は首をかしげたりピンクとオレンジを混ぜ濃いピンクの事を「ぶたいろ！」黄緑と黄色を混ぜて「ますかついろ！」など身近な色のものに当てはめて色を言っていた。また、友だちと一緒に色を混ぜて紫にしたところ保育者が「一緒に嬉しいね。並べてみたら？」と言うと友だちとペットボトルを並べた。すると見ていた子どもたちから「いろがちがう」「あかむらさきと、あおむらさき」と声があがっていた。保育者が「何でだろう？」と話す「わかんない」「ちがうのまぜたのかな？」など疑問が浮かんでいた。色の量によって番う色になることをまだあまり分かっていない様子だったので、今後の探求で少しずつ気が付いていけるように環境を設定していきたい。

階段作り  
好きな色を作りたいと伝えると、ひたすら絵の具を混ぜる子もいれば、自分の作りたい色を作る子もいた。ひたすら混ぜる子は「こんないろになった」「かみにないいろをつくりたい」と色の変化を楽しんでいる様子が見られた。作りたい色を考えている子は「うすびんくをつくりたいかもうすこししろをいれよう」「あかをおくしたらあかむらさきになった」と色を微調整しながら足す様子が見られた。保育者が「〇〇と〇〇を混ぜると〇〇になるんだね」「たーくさん混ぜたらそんないろになったんだ」などでできた色に驚くと嬉しそうにできた色を見せている姿が見られた。  
塗る時は「ぬったところにぬらないで」と重ねられるのを嫌がる様子が見られたが、塗っていくと「おれのいろのほうがつよい」と比べたり「こっかがかっこいいいろでこっかがかわいいいろ」「ちよこれーとのいろになった」と混ぜることで色の変化を楽しんでいた。

進んで行く「〇〇くんのいろちよとちようだい」「いいわたしにもちようだい」と友だちと一緒にする事や貸し借りをして楽しむ様子など見られた。できあがったものを見て「いのししみたい」と身近な動物に例えて言葉を発していた。



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき>

小麦粉粘土やペットボトルでの色混ぜ活動を通して、「知っている」と「実際にやってみる」ことの違いを実感し、実体験が子どもたちの興味・関心・意欲を大きく高めることを感じた。初めは自分の好きな色にこだわり固執する姿が多く見られたが、様々な活動の中で色に触れ、自分で作る・友だちと作るといった経験を重ねることで、多様な色への関心や愛着が広がっていった。

子どもたちは色の変化や濃淡の違いに気づき、試行錯誤を楽しみながら学びを深めていった。また、自分の色だけでなく友だちの色にも目を向け、感じたことを言葉で表現し合う姿が見られた。グループやクラス全体で一つの目標に向かって取り組む中で、協力する楽しさや達成感を味わい、相手の好きなものに耳を傾け共感しようとするなど、友だち同士の関わりも深まっていった。

さらに、講師の助言により環境設定や声かけを見直し、素材を自由に楽しめる制作環境を整えたことで、子どもが気づきを待ち主体的な活動や豊かな発見へとつながった。今後も日常の遊びの中で生まれる気づきや共感を大切にしながら、子ども同士のつながりを通して探究を深めていきたい。